

Hokkaido University News

北大時報

平成27年

5

No. 734 May 2015

北海道大学交流デー（中国 復旦大学）を開催
春の叙勲に本学から7氏

お知らせ

・北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設



1 認証評価について

■ 全学ニュース

- 2 北海道大学交流デー（中国 復旦大学）を開催
- 3 春の叙勲に本学から7氏
- 12 「フード&メディカルイノベーション（FMI）国際拠点」が稼働を開始
- 13 第2回COI「食と健康の達人」ワークショップ in 岩見沢を開催
- 13 平成27年度「全学教育科目に係るTA研修会」を開催
- 14 「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」及び「日本語研修コース」入学式を挙
- 15 北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙
- 15 保健センターで「保健センター体験見学会～ハートフルキャンパス～」を開催
- 16 北大フロンティア基金

■ 部局ニュース

- 17 歯学研究科・歯学部が韓国 江陵原州大学校歯科大学と部局間交流協定を締結
- 17 水産科学院・水産科学研究院・水産学部が函館市から産学官連携の建物を譲受
- 18 経済学部でメンタルヘルス講演会を開催
- 18 薬学部で新入生歓迎会を開催
- 19 薬学部で平成27年度薬学実務実習開始セレモニーを挙
- 19 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙
- 20 理学院等でリーディングプログラム・JACST合同シンポジウム「研究成果をなぜ発表しどのようにつたえるのか」を開催



北海道大学交流デー（中国 復旦大学）



保健センター体験見学会
～ハートフルキャンパス～

■ お知らせ

- 21 北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設

■ 諸会議の開催状況 22

■ 研修

- 23 平成27年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

■ 表敬訪問

- 24 国内
- 24 海外

■ 人事 25

■ 資料

- 28 役職員数（平成27年5月1日現在）



歯学研究科・歯学部
韓国 江陵原州大学校歯科大学と
部局間交流協定を締結



経済学部
メンタルヘルス講演会



薬学部
新入生歓迎会



脳科学研究教育センター
発達脳科学専攻開講式

認証評価について

理事・副学長 みかみ 三上 たかし 隆



学校教育法が平成14年に改定され、全ての大学は、教育研究等の総合的な状況について、7年に一度、国によって認証された評価機関による大学機関別認証評価（以下「認証評価」という）を受けることが義務付けられました。これまでに認証された大学（4年制）に対する評価機関は、大学評価・学位授与機構、大学基準協会及び日本高等教育評価機構であり、大学は3機関のいずれの機関の評価を受けても良いことになっています。

第1サイクルでの本学の認証評価は、平成21年度に大学評価・学位授与機構（以下「機構」という）の評価を受けていますが、本学の「評価に関する基本的な考え方（平成22年4月役員会決定）」の中で、今後は中期目標期間の6年目に受けることとしており、現在、第2サイクルでの機構の認証評価を受審するための自己評価書を作成しているところです。

大学評価基準及び評価について

機構の大学評価基準は、大学の学士、修士等の課程における教育活動を中心として、教育研究等の総合的な状況を評価するためのもので、大学として満たすことが必要と考える「10の基準」で構成されています。

さらに、基準ごとに、その内容を踏まえ、教育研究活動の状況を分析するための「基本的な観点」が設けられ、各大学には、全ての基本的な観点到る状況进行分析、整理することが求められています。

10の基準とその観点数は、基準1：大学の目的（観点数2）、基準2：教育研究組織（6）、基準3：教員及び教育支援者（7）、基準4：学生の受入（5）、基準5：教育内容及び方法（学士、大学院課程それぞれに13）、基準6：学習成果（4）、基準7：施設・設備及び学習支援（10）、基準8：教育の内部質保証システム（5）、基準9：財務基盤及び管理運営（13）及び基準10：教育情報等の公表（3）です。

自己評価書は、観点ごとにその状況を資料・データを基に記述し、また「優れた点」、「改善を要する点」を記述する場合には、その内容を「観点ごとの分析」の中に記述することになります。機構の評価は、基準ごとにその基準を満たしているかどうかの判断を中心に実施されますが、

その判断は、基本的な観点的分析状況を総合した上で行われ、また同時に「優れた点」、「改善を要する点」がある場合には、その内容は評価結果に記述されることになります。

第2サイクルでの改善点

第1サイクルの検証結果を踏まえて、基準等が一部改訂され、「学習成果」、「内部質保証システム」及び「大学における情報の公表」が重視されています。

基準6：学習成果では、第1サイクルでの「教育の成果」からの名称変更ですが、「教員の視点に立った教育（教員が何を教えるか）」から「学生の視点に立った教育（学生がどのような能力を身に付けるか(付けたか)）」へと視点の転換が図られました。

基準8：教育の内部質保証システムでは、教育の質の改善、向上を図るための取組として、活動の実態を示すデータや資料の収集・蓄積を行うだけでなく、第2サイクルではそれら进行分析し、更に改善・向上に結びつけるための体制が整備され実際に機能しているかが重視されることになりました。すなわち、IR (Institutional Research) が意識され、自己点検・評価の組織・機能についての評価の視点が強化されました。

基準10：教育情報等の公表は、新設の基準であり、ステークホルダーへの情報公開及び説明責任についての評価の視点が強化されました。

最後に

第2サイクルでの認証評価の大きな変更点は、各大学に自己点検・評価の実質化を求めていることです。実質化は、大学評価の基本である内部質保証システム（基準8）の中核に位置付けられる自己点検・評価を、PDCAサイクルにおいて機能させることです。さらに、自己点検・評価の徹底は、恒常的な質保証にとって欠かせないことですし、また社会に対する説明責任を果たすという意味でも重要です。

認証評価の役割は質保証のサポート役です。教職員一人ひとりには、優れている点はさらに伸ばし、改善すべき点は鋭意改善するための不断の努力が求められています。

■全学ニュース

北海道大学交流デー（中国 復旦大学）を開催

本学では、共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、3月30日（月）に復旦大学で北海道大学交流デーを開催しました。

復旦大学は、30の学部を有する総合大学で、本学とは平成16年に大学間交流協定を締結しています。

開会式には、同大学から馮 晓源副学長をはじめ、教職員、学生等約200人の出席があり、本学からは、上田一郎理事・副学長をはじめ、35人の教職員及び学生が出席しました。

開会式では、馮副学長の挨拶から始まり、続いて、本学の上田理事・副学長が挨拶を行った後、北京オフィスの野澤俊敬所長による、本学の国際交流及び日本への留学等の説明があり、最後に復旦大学の卒業生で、本学文学研究科の応 雄教授から本学の紹介が行

われました。

開会式の後は、復旦大学の学部等と5つの分科会に分かれ、研究交流セミナーが行われ、また、本学の大学間交流協定校である上海交通大学とも2つの分科会を行い、本学の紹介や研究交流が行われました。

復旦大学との第1分科会は、本学教育学研究院と復旦大学外国語学院日本語学科、第2分科会は、本学文学研究科と復旦大学中国言語文学学部及び新聞学院、第3分科会は、本学情報科学研究科と復旦大学信息科学・工程学院、第4分科会は、本学保健科学研究科と復旦大学薬学院、第5分科会は、本学医学研究科と復旦大学附属婦人科医院の間で行われました。また、上海交通大学との分科会は、第1分科会は、本学農学研究院と上海交通大学生

命科学技術学院、第2分科会は、本学工学研究院と上海交通大学船舶海洋建築工学院とで行われました。これらの分科会には、本学の参加者を含め、全体で159人が参加しました。

また、各分科会と並行して、復旦大学光華楼学生生活動広場で個別留学相談会及び本学各研究科等を紹介するパネル展を行いました。

今後も国際本部では、北京オフィスを活用し、中国における教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していきます。

（国際本部国際連携課）



開会式の様子



挨拶をする復旦大学の馮副学長



挨拶をする上田理事・副学長

春の叙勲に本学から7氏

このたび、本学関係者の次の7氏が、平成27年春の叙勲を受けることについて、4月29日（水）に発表となりました。

| 勲章 | 経歴 | 氏名 |
|-------|-----------------|-------|
| 瑞宝中綬章 | 名誉教授（元 医学部教授） | 阿部 弘 |
| 瑞宝中綬章 | 名誉教授（元 歯学部教授） | 雨宮 璋 |
| 瑞宝中綬章 | 名誉教授（元 工学研究科教授） | 小川 吉彦 |
| 瑞宝中綬章 | 名誉教授（元 工学研究科教授） | 岸田 路也 |
| 瑞宝中綬章 | 名誉教授（元 工学研究科教授） | 飯田 誠一 |
| 瑞宝単光章 | 元 北海道大学病院副看護部長 | 道谷 英子 |
| 瑞宝双光章 | 元 工学部事務部長 | 吉田 三郎 |

各氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。各氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

（総務企画部広報課）



あべ ひろし
阿部 弘 氏

感想

この度は、叙勲の栄を賜り誠に光栄に存じております。北海道大学医学部を卒業後、御指導いただいた故 諏訪 望先生、故 都留美

都雄先生、先輩の諸先生、並びに御支援いただいた同輩、後輩の諸先生に心から感謝いたします。

私は昭和36年に医学部を卒業し、インターン後の昭和37年に脳神経外科を学ぶために精神医学教室（諏訪 望教授）の傘下にあった脳神経外科診療班（都留美都雄助教授）へ入りました。脳神経外科が独立するまでの3年間を過ごした精神医学教室では、諏訪先生並びに諸先生の薫陶を受け、私の医師としての人格形成の礎となる貴重な経験をしました。

昭和40年に脳神経外科が講座として独立し、都留先生が初代教授に就任しました。3日に1度の当直勤務と厳しいレジデント教育を受けました。臨時手術の後に定期手術が続き、手術室から一歩も出ないうちに日が暮れていきました。当時は、いかにして眠る時間と食べる時間を確保するかばかりを考えていました。

1969年から1972年まで約3年間、米国オハイオ州立大へ留学して、Nitrosoureaによる実験脳腫瘍の作製とLysosome酵素の研究に従事しました。当時としては、実験脳腫瘍の先端に行く仕事でした。

1970年代になって、顕微鏡下手術の時代となり、脳神経外科の手術は、より微細で精密なものになりました。手術成績は飛躍的に向上しましたが、手術時間が10～10数時間という手術が続きました。私は手術を記録した16mmフィルム、またはビデオテープを何本もかかえて世界の学会へ乗り込みました。それらの映像は言葉のハンディーを超えて聴衆に感銘を与えてくれました。やがて、頸椎後縦靭帯骨化症、頭蓋頸椎移行部病変、脊髓腫瘍、脊髓空洞症などの患者が、海外から次々と紹介されて北海道大学病院へ送られてきました。また私は、手術器械をかかえて、海外へ手術に出かけたことも数回ありました。これらの脊髓疾患の中でも、頸椎後縦靭帯骨化症に対する顕微鏡下での頸椎前方除去固定術は、私の最も得意とする手術で、世界でも多くの手術件数となりました。

教授就任後の16年間は、学会主催も多く、教室員には苦勞をかけました。中でも平成10年の第57回日本脳神経外科学会総会（札幌）と、平成11年の第13回国際脳腫瘍会議（洞爺）が圧巻でした。洞爺での学会の6ヶ月後に、開催した会場から数百メートルの所が噴火しました。

私は外国を飛びまわっていましたが、教室員は診療と研究、そして論文発表に奮闘してくれました。16年間に教室から発表された論文は総数で1,397編あり、うち英文論文は396編でした。選択が最も困難な米国脳神経外科学会で口頭発表に於ける日本からの演題は毎年2～3題しか選択されない中で、本学からは必ず1～2題採用され、教室の実績は日本を代表するものとなりました。私は、もっぱら招待講演を依頼され、それは10年以上続きました。

北海道大学病院長時代は、小児科での日本最初の遺伝子治療が行われ、マスコミとの対応に追われました。また、北海道大学病院に於けるボランティアの方々による支援活動を提案し、実現することができました。

馬車馬のように走りまくった教授時代でしたが、私を支援して下さった医学部、病院の皆様、教室員の諸君に深甚なる感謝の意を表します。

平成12年、北海道大学を定年退官後は、北海道医療大学で2年間教育に携わりましたが、その後は民間病院で診療に従事してきました。平成18年より再び手術を行うことになり、9年間で約450件の手術を行いました。今も週1件の手術を行っております。私の現在の願望は、“もっと手術が上手になりたい！”です。身体の続く限り手術を続けていきたいと思っております。

功績等

阿部 弘氏は、昭和11年4月8日に北海道に生まれ、同36年3月北海道大学医学部医学科を卒業し、同年4月より北海道大学医学部附属病院において一年間の実地修練を終了した後、同37年4月北海道大学大学院医学研究科に入学し、同41年4月単位修得退学、同年5月北海道大学医学部助手となりました。昭和41年6月に医学博士の学位を取得した後、同42年7月から釧路労災病院脳神経外科部長となり、同43年7月北海道大学医学部附属病院講師となりました。昭和48年2月には北海道大学医学部助教授、同59年8月には教授に任命され、脳神経外科講座を担当し、以来平成12年3月の退官まで15年余りの永きに亘り教育、研究、診療に従事されました。また、平成7年4月からの2年間で、北海道大学医学部附属病院長として当該病院の管理運営に貢献されました。退官後も平成13年4月から同18年3月まで北海道医療大学心理科学部教授として教鞭を振るわれました。

同氏は、北海道大学医学部脳神経外科学講座の教授として、脳神経外科学の教育・研究を指導され、その発展に尽力されました。研究面では、脳腫瘍、脳血管障害、脊髄の3グループの研究体制を確立されました。特に脳腫瘍の分野では、実験脳腫瘍の導入、悪性神経膠腫に対する免疫療法、サイトカインの応用、抗がん剤の耐性の克服等に関する基礎研究を指導され、臨床における悪性脳腫瘍の化学療法の新たなプロトコル確立に貢献されました。教育面では、神経学的診察と画像診断による正確な術前診断を重要視され、脳神経外科専門医が脳疾患に限らず、脊髄・末梢神経疾患を含めた神経外科全般の知識と技術を備えるように配慮されました。また、脳神経外科教室員の海外留学を積極的に進められ、教授在任中に29名の教室員が海外での研究に従事しました。海外から北海道大学脳神経外科教室を訪問して講演を行う脳神経外科医・神経科学者も45名のほり、世界的な視野を有する脳神経外科医の育成に尽力されました。

診療面では、厚生労働省が難病指定する疾患の一つである頸椎後縦靭帯骨化症に対して、手術用顕微鏡下での頸椎

前方除圧固定術を確立され、国内のみならず、海外でも注目されました。また、「頸椎後縦靭帯骨化症に対する前方除圧固定術」に対しての功績が認められ、平成6年に北海道医師会賞及び北海道知事賞を受賞されました。

また、日本脳神経外科学会等の様々な国内学会の発展と脳神経外科医の教育に多大の貢献をされるとともに、平成11年に世界の著名な脳腫瘍研究者が集まって最新の研究成果を発表する第13回脳腫瘍国際会議を学会長として北海道での開催を成功させるなど国際学会でも精力的に活動され、世界における日本の脳神経外科の学術的地位の向上に貢献されました。

そのほか、昭和59年より北海道特定疾患対策協議会委員、平成7年より厚生省特定疾患対策研究事業評価委員として、難病の調査研究、評価に尽力されました。

以上のように、同氏は、脳神経外科学の教育と研究、困難な疾患の外科治療と国際貢献に尽くされ、その功績は誠に顕著であります。

略 歴

- 生年月日 昭和11年4月8日
- 昭和41年5月 北海道大学医学部助手
- 昭和42年7月 釧路労災病院
- 昭和43年7月 北海道大学医学部附属病院講師
- 昭和48年2月 北海道大学医学部助教授
- 昭和59年8月 北海道大学医学部教授
- 平成7年4月 } 北海道大学医学部附属病院長
- 平成9年3月 }
- 平成12年3月 北海道大学停年退職
- 平成13年4月 北海道医療大学心理科学部教授
- 平成18年4月 医療法人秀友会札幌秀友会病院名誉院長

(医学研究科・医学部)



あめみや あきら
雨宮 璋 氏

感 想

この度、春の叙勲で、瑞宝中綬章を受章致しました。身に余る光栄で、これも偏に恩師、先輩など多くの方々のご指導、ご支援の賜物と心から感謝致しております。

昭和34年、東京医科歯科大学歯学部を卒業、大学院歯学研究科へ進学しましたが、翌35年には医学部難聴研究施設に増設された病理学研究部門に、助手として採用されました。

この頃、我が国では歯科医師の不足が深刻で、国家的要請から、歯学部、歯科大学の新設が相次ぎました。私も昭和41年には、新設された新潟大学歯学部へ助教授として転出し、更に昭和44年には、その後新設された北海道大学歯学部に移りました。昭和45年4月に口腔病理学講座の教授に昇任し、平成9年3月に退官するまで、27年余り、北海

道大学に奉職致しました。

研究面では、恩師秋吉正豊先生が手がけておられた、骨の病理学の研究を手始めに、骨組織から更に歯周組織の機能と構造との関係の解明へと進みました。当時、電子顕微鏡の医学、生物学の分野への応用が進み、我が国の研究は、欧米諸国でのそれを凌ぎ、世界の先端にありました。しかし、骨は石灰化した組織で硬く、また歯周組織には軟組織が介在するので、標本の作製には困難が多く、ほとんど手付かずの状態のまま残されていた領域でした。電子顕微鏡を使つての観察は、常に未知なるものとの遭遇で、生体の神秘を垣間見る思いで、研究に没頭したものです。

一方、国際協力の面でも、姉妹校との交流をはじめ、発展途上国の歯学教育、歯科医療の発展にも、協力する機会が与えられたことは幸せでした。昭和49年にはビルマ（現ミャンマー）国立歯科大学へ、また、北海道大学退官後の平成10年には、スリランカのペラデニヤ大学歯学部に対する援助の一環として、いずれもJICAから派遣され、口腔病理学講座の整備拡充と、学生教育の充実のために尽力致しました。

平成5年には、バングラデシュの歯学教育と歯科医療の実情を視察するために、河村正昭名誉教授と共に、調査に出向きました。この頃には既に、本学歯学研究科にバングラデシュからの留学生を受け入れておりましたが、現地の実情を考慮すると、バングラデシュにおける、将来の歯学教育と歯科医療の在り方を展望し、その理念を実現し得るような人材の育成が、より重要ではないかという観点に立って留学生を指導しました。その後、本学で学位を取得した若者達の高邁な大志が、母国バングラデシュで、花開きつつあることを目のあたりにする機会もあり、大変嬉しく思っております。

国際交流を通して、多くの国の人々と触れ合うことができたことは、有意義で、楽しい思い出になりました。

昭和42年に北の大地に産声を上げた北海道大学歯学部は、創立50周年を迎えようとしておりますが、社会情勢の変遷の中で、今こそ「患者にとって何がベストか」という医療の原点に立ち返って、その在り方を模索する時かもしれません。

北海道大学のより一層の発展を祈念致しております。

功績等

雨宮 璋氏は、昭和8年12月11日、静岡県富士市に生まれ、同34年3月に東京医科歯科大学歯学部を卒業後、同大学院歯学研究科入学、同35年7月同大学医学部難聴研究施設病理部門助手に採用され、同38年5月講師に昇任されました。その後、医学博士の学位を授与されています。昭和41年8月に新潟大学歯学部口腔病理学講座に助教授として転出し、同44年7月北海道大学歯学部へ転任、同45年4月口腔病理学講座教授に昇任されました。爾来27年間、教育、研究の面で優れた業績をあげるとともに、平成3年4月から2期4年間、歯学部長として、大学及び歯学部の運営に尽力されました。平成9年3月北海道大学を定年退官

され、同年4月には、北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

研究面では、骨代謝、歯周組織の構造と機能に関し、組織学的及び微細構造学的に詳細な検討を加えた、骨の形成と吸収に関する骨芽細胞や破骨細胞の構造を検索し、機能との関連性を検討することによって、ダイナミックな骨代謝の機構を明らかにされました。また、歯周組織についても機能と関連する構造の変化を観察し、機能に密接に関連した代謝機構を解明し、国際的にも高く評価されています。

一方、口腔内に発生する腫瘍についても、実験的に多方面から検討し、発癌や転移のメカニズムを解明し、臨床分野にも多大な貢献をされています。

臨床病理学の分野でも、患者から提供される膨大な検体を光顕的、電顕的、さらに分子病理学方面から詳細に検討し、診断と治療の面で、歯学及び歯科医療の発展に貢献されています。

他方、国際交流の面でも積極的に活動し、オレゴンヘルスサイエンス大学歯学部、韓国全北大学校歯学部との姉妹校関係を推進し、教育、研究面での発展に努められました。また、発展途上国への国際協力についても、JICAと協力して積極的に関与し、ビルマ（現ミャンマー）国立歯科大学医療協力、バングラデシュにおける歯学教育の実態調査、退官後もスリランカペラデニヤ大学歯学教育プロジェクトなどにも参画され、発展途上国における歯学教育及び歯科医療の推進に協力されています。

また、留学生の受け入れにも並々ならぬ熱意を示され、多くの学生を夫々の母国に送り出されました。

以上のように、同氏は37年におよぶ教職の中で、国の内外を問わず、教育及び研究の発展に尽力され、多くの業績を残されており、その功績は顕著であります。

略 歴

| | |
|---------|-----------------------|
| 生年月日 | 昭和8年12月11日 |
| 昭和35年7月 | 東京医科歯科大学医学部附属難聴研究施設助手 |
| 昭和38年5月 | 東京医科歯科大学医学部附属難聴研究施設講師 |
| 昭和41年8月 | 新潟大学歯学部助教授 |
| 昭和44年7月 | 北海道大学歯学部助教授 |
| 昭和45年4月 | 北海道大学歯学部教授 |
| 昭和59年8月 | 北海道大学評議員 |
| 昭和63年7月 | |
| 平成3年4月 | 北海道大学歯学部長・歯学研究科長 |
| 平成7年3月 | |
| 平成9年3月 | 北海道大学停年退職 |
| 平成9年4月 | 北海道大学名誉教授 |

(歯学研究科・歯学部)



おがわ よしひこ
小川 吉彦 氏

感想

この度は、関係各位のご推挙により叙勲の栄を賜り、誠に光栄に存じます。

昭和33年に北海道大学工学部電気工学科を卒業し、日本電気株式会社に就職しましたが、翌年退職して同大学の修士課程に入学し、修了後に新設の北海道大学工学部電子工学科の講師として勤務しました。昭和57年に教授を拝命し、停年まで奉職しました。

私の本来の専門は半導体デバイスで、学位論文もシリコンによる炭酸ガスレーザ変調でした。しかし学外からの研究依頼の内容は専門外のことが多く、色々なことを行いました。これを3つご紹介します。

昭和52年に有珠山が噴火して、洞爺湖温泉街のテレビの写りが悪くなった理由の原因究明を頼られました。テレビ電波は室蘭から有珠山上空を通過して送られていたので、有珠山隆起により複数折状況の変動と考えて解析しました。結果はその通りで、さらに予測も正しく実験通りでした。このため有珠山上空を通るルートは廃止になりました。

2つ目は、中波ラジオのNTT回線中継による20ms程度もある遅延時間問題です。このため聞きづらく受信者からの苦情が絶えませんでした。このような大きい遅延のアナログ等化は不可能です。当時デジタル信号処理用のICが売り出され、これによるデジタル信号処理システムを考え出して製作しました。現在のような超高速処理はできなかったのが苦労しましたが、上質の等化に成功し、放送局の方々に喜ばれました。

3つ目は理学部卒業の同期生（故人）に依頼されたペルチェ冷却とゼーベック発電素子の開発研究です。このような熱電現象は過去に8つ発見されていますが、それらを定量的に説明する統一理論が存在していませんでした。私はボルツマン輸送方程式によって電子の熱電運動を解析し、電流及び熱流の理論式を導出しました。これによりすべての熱電現象を定量的に解析することができました。これは世界で初めてのことで自負しています。この研究の成果は、私の著書8冊の中で、定年の年に出版した単著「熱電変換システム設計のための解析」の中で詳しく述べてあります。このような熱電理論を書いたものが他にないため好評で、今でも広く使われており2版目が出版されています。またこの研究により、国が進めた熱電開発事業にも寄与しました。

この度の栄誉に浴することができたのも、長年にわたり良い研究環境を与えてくださった北海道大学、そして同僚や研究者の皆様のお陰と感謝しております。最後になりましたが、長年にわたって私を支え続けてくれた妻は、7年前から難病で意識を失い入院していて、この度の受賞を知らせることのできないのが心残りです。

功績等

小川吉彦氏は、昭和33年3月北海道大学工学部電気工学科を卒業後、日本電気株式会社勤務を経て同36年3月北海道大学大学院工学研究科修士課程を修了されました。

昭和36年4月北海道大学工学部講師に採用され、同37年4月助教授に昇任、同57年4月に教授に昇任され、平成11年3月、停年により退官されました。平成11年4月には名誉教授の称号を授与されています。

北海道大学在職中、学部においては、電子工学概論、パルス回路など、工学研究科においては、半導体デバイス工学特論、集積計算機工学特論などを担当されるとともに、学部生及び大学院生の研究指導に当たり、多くの技術者と研究者の育成に努力されました。

研究面では、主として半導体関係及び信号処理関係に取り組まれました。

半導体関係の主たる研究は、半導体薄膜の作成とその物性の研究、Sip-v-nダイオードによるCO₂レーザの変調に関する研究、熱電磁変換現象の理論解析とその応用システムに関する研究等をされました。

半導体薄膜関係では、グロー放電によるアモルファスSiの局在順位に関する研究等をされ、Sip-v-nダイオードによるCO₂レーザ変調の研究については、波長10.6μmの遠赤外CO₂レーザの高速パルス変調がSip-v-nダイオードへの通電により可能なことを理論的に解明し、またそのデバイスを試作して実験的に初めて立証されました。この成果によって、昭和54年6月に「CO₂レーザ変調用 Sip-v-nダイオードの研究」の題目で、北海道大学から工学博士の学位を取得されています。

信号処理関係では、放送波の伝送歪の解析とその等化処理システムの開発や画像処理が主たる研究対象で、具体的には、TV放送波の伝送中に受けるクロマ歪の新しい検出法を提案し、それによるデジタル自動歪検出システムと等化システムの開発をされました。特に、ラジオ用の音声継線で発生する位相歪に由来する音声信号の劣化をデジタル位相調整により改善する「中波ラジオ放送中継線用の群遅延等化器」の実用技術の開発に対して、株式会社北海道放送に昭和62年の民放連賞技術部門優秀賞が授与されています。これは小川吉彦氏の研究成果と技術指導により実現したものであり、実社会への貢献として特筆すべきものです。

教育・学術の発展に関する功績については、学内では教授会の運営に関する検討委員会委員や学部教務委員会委員長、教職課程委員会委員等を務められました。学外においては、文部省教科書検定調査審議会調査員を務められ、我が国の教育の発展に寄与するとともに、電子情報通信学会評議員をはじめ、同学会北海道支部長、同学会学会誌編集顧問を歴任されるなど、学内外で学術・研究の発展に大いに貢献されました。

以上、同氏は学生の教育、学術研究の発展、北海道大学の運営などに対して多大な貢献をなされました。

略歴

生年月日 昭和10年8月27日
 昭和33年4月 日本電気株式会社
 昭和34年3月 同上 退社
 昭和36年4月 北海道大学工学部講師
 昭和37年4月 北海道大学工学部助教授
 昭和57年4月 北海道大学工学部教授
 平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科教授
 平成11年3月 北海道大学停年退職
 平成11年4月 北海道大学名誉教授

(工学院・工学研究院・工学部)



きしだ みちや
 岸田 路也 氏

感想

からだの不自由な私を、助けてくれた妻と子供たちのために、いただきました。

功績等

岸田路也氏は、昭和38年3月北海道大学大学院工学研究科機械工学専攻博士課程を修了され、学位論文「疲労破壊に及ぼす切欠き効果について（低炭素鋼の場合）」によって工学博士の学位を取得、同年4月北海道大学工学部講師に採用となり、同年10月助教授に昇任、同57年2月教授に昇任され、平成11年3月、停年により退官されました。平成11年4月には名誉教授の称号を授与されています。

北海道大学在職中、学部においては材料力学第一、機械工学大意実験など、また、工学研究科においては材料力学特論、機械材料試験法特論などの講義、演習を担当されるとともに、学部生及び大学院生の研究指導に当たり、多くの技術者と研究者を育成されました。

研究面では、主に弾性力学や破壊力学及びメゾ力学の分野で新たな解析手法を提案されるなど独創的な研究を行い、この分野の発展に多大の貢献をされました。すなわち、切欠き形状を因子とする疲れ強さの実験式を提案されるとともに、き裂先端での弾塑性応力分布を考慮した「影響深さ」の概念によって停留き裂を検討され、有益な知見を示されています。また、弾性境界値問題の一解法である境界積分法において、仮想境界の概念を導入した新たな「仮想境界積分法」を提案され、いろいろな境界値問題に適用し、実境界上での精度を飛躍的に向上させ、解法の有用性を明らかにされました。例えば間接境界積分法に仮想境界を導入した「間接仮想境界積分法」によっては、高精度の解析が困難であった薄肉断面材のねじり問題、二次元の接触問題及び熱応力問題、三次元の数理解析解の無かったさら形胴長部を有する圧力容器と変厚中空円環問題、き裂による特異応力場問題、磁場に誘起される電導体中の特

異応力場問題及び時間依存基本解を用いた非定常動的接触・衝突問題などを扱われるなど、従来の難解な方法に対し、独自の見方で新しい容易な方法を提案されました。

学内においては、入学者選抜制度調査委員会委員、大型計算機センター数値解析研究委員会委員を務められ、工学部内においては各種委員会の委員長及び委員を歴任されるなど、工学部の運営に参画されるとともに、その発展に尽くされました。

学外においては、日本機械学会理事、同評議員、同第二出版部会運営委員、材料強度学会評議員、文部省学術審議会専門委員、日本国際賞受賞候補者推薦委員などを歴任され、学術の発展に大いに寄与されました。

以上、同氏は学生の教育、学術研究の発展、北海道大学の運営などに対して多大な貢献をなされました。

略歴

生年月日 昭和10年9月24日
 昭和38年4月 北海道大学工学部講師
 昭和38年10月 北海道大学工学部助教授
 昭和57年2月 北海道大学工学部教授
 平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科教授
 平成11年3月 北海道大学停年退職
 平成11年4月 北海道大学名誉教授

(工学院・工学研究院・工学部)



いっだ せいいち
 飯田 誠一 氏

感想

このたび、叙勲の栄を賜りましたこと、身に余る光栄と存じております。

平成27年4月17日付で下村博文文部科学大臣より文書が到来し、5月13日午前11時40分から伝達式を行い、次いで午後2時50分から皇居において、配偶者共々、拝謁が行われる旨の連絡を受けました。

以前からこのような機会に恵まれることがあれば、「家内共々の出席を」と決めておりましたが、このところ続いている家内の体調不良と私の足腰の衰えも考慮して、残念ではありますが欠席することにいたしました。

叙勲受章の報に接し、様々な思いが脳裏を去来しました。

今回の受章は、私個人に与えられたというより、これまで私を育ててくれた諸先生をはじめとする先輩・同僚・後輩の皆さんによる温かい声援と励ましの結果と思っております。

特に、恩師である故 有江幹男元北海道大学学長には、昭和30年北海道大学工学部機械工学科へ移行し、その後、旧応用力学第三講座（専門：水力学・水力機械）に所属して以来、学問の手ほどきばかりでなく公私ともに多大の薫

陶を受けました。また、故 谷 一郎東京大学名誉教授、私の前任者である小橋安次郎教授には、流体力学の本質について啓蒙されることが多かったことが思い出されます。

一教官として任官してからは、「教育」「研究」「地域貢献」の3つを人生の目標に掲げて努力してまいりました。また、多くの有能な学生諸氏が各々の個性を思う存分発揮しながら巣立ち、各方面で活躍していることを心強く思うとともに楽しみでもありました。また、文部省在外研究員として米国コロンビア大学、ヒューストン大学で海外の研究者とカオス研究に日夜励んだことなど、懐かしく思い出されます。

北海道大学を停年退職後も、北海道立工業試験場に籍を置き「ダクトファン」の開発や「中・小型風車の開発」に関わってまいりました。そして何よりも大学以外の方々と交流を深めることができたことは望外の幸せでした。

今回の受章は、これらが総合的に評価されたことによるものと考えております。

感想文を閉じるにあたり、私事ではありますが、家内には数々の内助と苦勞をかけてきました。心より謝意を述べたい。今春は孫2人が大学への進学を果たし、人生の新しい門出につきました。私も心機一転して、もう少し世の中のお役に立ちたいと願っております。そして、今年こそは生まれ育った函館へ帰り、両親の墓前に受章の報告をしたいと思っております。

功績等

飯田誠一氏は、昭和35年3月に北海道大学大学院工学研究科修士課程を修了され、同年5月に博士課程を退学後、同年6月に北海道大学工学部講師に採用されました。その後、昭和36年6月に助教授に昇任、同58年4月には教授に昇任され、平成11年3月に停年により退官されました。平成11年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されています。

北海道大学在職中に、学部においては機械工学大意、流体力学等、また大学院において流体力学第二特論、機械工学第二特論ゼミナール等、多くの講義演習を担当されるとともに、学部生及び大学院生の研究指導に当たり、多くの技術者と研究者の育成に努力されました。

研究面では、物体周りの流れ、層流境界層の解析及び流体機械の性能に関する研究、乱流境界層の相似則、よどみ点流れの安定性及び圧縮性流体の流れに関する研究、熱流体のカオス的挙動に関する研究を行い、これらの分野の研究発展に多大な貢献をなされました。なかでもコンピュータの黎明期より流れの数値解析手法の研究を続けられ、層流境界層の数値解法としては最も高速な手法の一つとして知られる独自の高収束解法を確立し、層流剥離の予測と制御の分野に多大な貢献をなされました。この業績は“Encyclopedia Fluid Mechanics”に収録され世界的にも認められています。流体力学の理論的研究としては、従来主流であった微小変動のみを扱う線形理論に対して有限変動を考慮した非線形解析を展開してよどみ点流れの非線形安定性に関する一連の研究成果を挙げられました。これら

成果は複数の学術論文として掲載公表されるとともに、学位論文「二次元よどみ点付近のかく乱を含む流れとその非線形安定理論」として北海道大学に提出され、昭和54年に工学博士の学位を授与されています。また、熱流体運動の非線形性にも着目しそのカオス的挙動のモデリングの研究に従事され、ベナール熱対流の5方程式モデルを完成させるという成果を残されています。これは、ローレンツモデルに代表される二次元熱対流理論が3方程式モデルであるのに対して自由度を増すことでより現実の流れに近い高精度モデルを提案したものでした。さらに、これら流体力学工学研究に関連して画像処理技術を応用した粒子画像計測法（PIV法）による3次元流れの可視化計測の先駆的研究にも寄与されました。

工学教育・研究の発展普及に関わる業績では、学内においては、国際交流委員会専門委員など、主に本学の国際交流分野で貢献され、学外においては、我が国の機械工学分野の主たる学術団体である日本機械学会庶務理事をはじめ、ターボ機械協会評議員などの役職を歴任し学術・技術の発展に大いに寄与されるとともに、米国コロンビア大学、米国ヒューストン大学などとの研究協力を通じて国際的な研究協力の推進に努められました。これらの功績により、日本機械学会より流体力学部門功績賞、創立100周年記念事業記念特別表彰、北海道支部貢献賞を受賞されています。

以上、同氏は学生の教育、学術研究の発展、北海道大学の運営などに対して多大な貢献をなされました。

略 歴

| | |
|---------|-----------------|
| 生年月日 | 昭和10年10月9日 |
| 昭和35年6月 | 北海道大学工学部講師 |
| 昭和36年6月 | 北海道大学工学部助教授 |
| 昭和58年4月 | 北海道大学工学部教授 |
| 平成9年4月 | 北海道大学大学院工学研究科教授 |
| 平成11年3月 | 北海道大学停年退職 |
| 平成11年4月 | 北海道大学名誉教授 |

(工学院・工学研究院・工学部)



みちや ひでこ
道谷 英子 氏

感 想

この度、叙勲の栄誉を賜り身に余る光栄でございます。多くの皆様のご指導ご支援の賜物と心から感謝し、お礼申し上げます。

私は、昭和53年北海道大学病院に就職し、昭和62年から3年間札幌を離れましたが、帰札幌後、再就職の声掛けをいただき北海道大学病院に戻り、以降退職まで合わせて32年間勤務させていただきました。

昭和53年最初の配属場所は手術部でした。手術部が初めての私には、覚えることが沢山ありました。手術に使用される一つひとつの機械の名称、毎日変わる担当手術の理解とその手順、今日の手術が終わると翌日担当する手術手順と機械の名前を確認します。そのようなことを繰り返しておりましたら、夢の中で手術用のハサミに追いかけていたこともありました。

その当時、脳外科の手術時間は、24時間以上かかることはよくありました。大変だったのは、自分の当直日に脳外科の手術の担当になりますと、朝一番から脳外科の手術に入ります。手術の場から離れることができるのは、昼食の時間とその日の当直準備のための1時間の休憩時間だけでした。深夜に入ると手術をされている先生以外は、眠りに耐えるのに必死でした。私は倒れないように手術器具を載せている機械台によくしがみついております。ただひたすら日勤の看護婦を待っておりました。その後、医療器具や手術方法は大きく進歩し、手術時間が短くなることで、患者さんの手術侵襲を少なくすることにつながっています。

平成9年、私が看護師長に昇任した場所は、放射線科・麻酔科病棟でした。故 入江五郎放射線科教授が看護業務の電子化を発案してくださる以降、電子化は放射線科病棟で改良を重ね、当時は試行診療科を拡大する時期でした。その担当者として前任の看護婦長が残っていただきました。担当メーカーの変更で、拡大直前に使用勝手が変わり、スタッフの混乱を受け止めながらも看護婦長として取るべき方策が見えなくなる時もありました。そのような時、担当の看護婦長さんは様々な思いを受けとめて、支援してくださいました。

放射線科の先生は、看護業務電子化は素晴らしいことだと思う、ここまで実現し進めてきている看護の組織力は素晴らしいと褒めてくださいました。その時から私は、自分の取り組む方向性は、先輩が作り上げたものをより良く発展させ、次の世代に渡していくことが役割と迷いなくなりました。

平成20年に副看護部長となり、看護職の教育担当となりました。看護婦長時代と違い、病院組織全体をおさえた院内教育が求められました。チーム医療が推奨されており、医療チームは協働し成果を出すことを期待されていました。協働に向け多職種との合同研修会は、互いの職種を理解し、多くの気づきを得る場となっています。

最後にこれまでご指導ご支援を頂いた皆様、このような栄誉に恵まれたことは、多くの皆様のご指導ご支援の賜物と心より感謝し、お礼申し上げます。

功績等

道谷英子氏は、昭和28年1月13日に北海道士別市に生まれ、同53年4月北海道大学医学部附属病院に就職し、平成5年副看護婦長、同9年4月看護婦長、同20年副看護部長を歴任し、同25年3月に北海道大学病院を定年にて退職されるまで勤務されました。

同氏は、当初勤務した手術部では、小児の手術中の体温

変動に対する効果的な用具の工夫等安全・安楽な手術看護に取り組まれました。特殊検査室においては、不安の強い放射線検査や治療を受ける患者の安全・安楽に視点を置いた看護実践を行い、放射線看護の質の向上に努められました。

看護婦長在職中は、文部省主催の「看護管理者講習会」及び日本看護協会認定看護管理者制度セカンドレベル教育を受講し、看護管理者としての資質向上に努められました。

同氏は、本院におけるがん看護の実践をスタッフとともにまとめ、学会や専門誌に多数発表されました。また、放射線看護に携わる看護師に永く読まれている「放射線科エキスパートナースング」（平成17年改訂版の共著）を出版し、放射線看護発展に多大に貢献されました。

副看護部長在職中は、本院の教育担当副看護部長として、看護職のキャリア開発を継続的に支援するためにキャリア支援室を設置し、新人看護職研修プログラムの開発と実施・評価、看護部教育委員会との連携、多職種合同研修構築等、キャリア支援室の組織作りと定着に貢献されました。

臨床における質の高い看護ができる専門職業人の育成のための集合教育を担う看護部委員会においては、教育委員会を4年間、看護業務委員会を3年間担当され、日本看護学会看護管理「情報開示に向けた看護記録の相互監査の有効性と課題」等を発表されました。

同氏は、社会的活動も精力的に行い、北海道看護協会においては現任教育研修会の助言及び講師等を担当し、北海道看護協会における継続教育に尽力されました。さらに、平成9年から同12年までホスピスケア研究会世話人、同17年から同20年まで造血幹細胞移植北海道研究会幹事、同23年から同25年まで日本看護研究学会北海道地方会研究奨励賞選考委員を歴任され、北海道のがん看護、造血幹細胞移植看護をリードされ、発展させました。

このように、32年の永きに亘り看護管理・教育の充実に尽力した同氏の功績は誠に顕著であると認められます。

略 歴

| | |
|---------|-------------------|
| 生 年 月 日 | 昭和28年1月13日 |
| 昭和53年7月 | 北海道大学医学部附属病院看護婦 |
| 平成5年4月 | 北海道大学医学部附属病院副看護婦長 |
| 平成9年4月 | 北海道大学医学部附属病院看護婦長 |
| 平成20年4月 | 北海道大学病院副看護部長 |
| 平成25年3月 | 北海道大学定年退職 |

(北海道大学病院)



よしだ さぶろう
吉田 三郎 氏

感想

このたび春の叙勲で瑞宝双光章拝受の栄に浴し、身に余る光栄に感激しております。これも偏に良き上司、諸先輩、同僚、後輩の皆様には巡り会えて、永年にわたってのご指導且つご支援を賜りましたお陰と深く感謝いたしております。

このたび、北大時報に叙勲を受けての感想と思い出等を記す機会にあたって、思いつくままに振り返ってみました。

昭和29年4月に旧教養部（当時は一般教養部）に奉職以来、旭川医科大学での1年半を含めて42年の永きにわたり、与えられた職責を果たすことができましたことは微力な私を支えてくださった方々があればこそと感謝の念一杯です。

思い起こしますと、職務の殆どである40年余を北海道大学で仕事をさせていただきましたが、その中でも16年間の教養部は社会人として初めての出発点ということもあり、ひとしお印象深いものがあります。当時の教養部は、明治43年建築の「古河講堂」、「中央講堂」や「第一」から「第五」までの各講堂など、数多くの木造建築に分散しておりました。その後、昭和38年に北17条に建てられた新館に統合され、現在の総合教育部に至ります。当時の教養部には、本来の業務の中で、とりわけ大きな「学部移行業務」と「入学試験の受付業務」を担っていました。前者は、文類・理類の学生に対して本人の志望と入学後の成績で進学する学部を決めるための業務でした。また、後者の「入学試験」については、願書受付期間中の数日間は2～3時間の仮眠を取りながらの徹夜作業となったこと、東京試験場へ入試問題の入った大きなリュックを背負って青函連絡船の棧橋を走ったこと、受験生増加による学外試験場の確保に奔走したこと、そして入試委員の先生方と徹夜で合格発表の掲示、報道機関等に対する合格者名簿を毛筆・ガリ版で作成したことなど懐かしく思い出されます。

また、事務局においては、昭和48年に入学主幹の設置に伴い初代の掛長として再び入試業務を担当、庶務課では昭和51年に開催された創基百周年記念事業を担当、厚生年金会館での式典を滞りなく終えた時の感動は今でも鮮明に残っております。その後、北海道大学では事務局人事課をはじめ、学部、研究所、短期大学部において、上司、同僚をはじめ多くの方々の温かいご指導・ご協力を得て、職務を出来たことに心からお礼を申し上げます。

ただ、一方においては、昭和44年4月に入学式場が一部学生に占拠され、新入生を教養部の教室に分散しての入学式実施となった事態を端緒とした、いわゆる大学紛争の波が押し寄せ、学内の建物封鎖解除のため公権力を借りて解決せざるを得なかったことなどは、札幌の中心にあって市民からも愛されている四季折々に美しい姿を見せるキャンパスを持つ北海道大学にとってあるべき姿ではなく、寂し

い思い出として記憶しております。

このたびの叙勲にあたり、これまで40年余にわたってお世話いただきました関係の皆様様に心から深謝しお礼申し上げますとともに、北海道大学の今後の益々のご発展を祈念いたします。

功績等

吉田三郎氏は、昭和29年3月北海道札幌西高等学校を卒業後、同年4月北海道大学一般教養部臨時用人として採用され、同32年7月に事務員、同34年3月文部事務官に任官されました。その後、昭和40年4月教養部教務掛長に昇任され、法学部庶務掛長、庶務部庶務課企画調査掛長、庶務部入学主幹付入学試験掛長、庶務部庶務課総務掛長を歴任され、同54年4月旭川医科大学総務部庶務課課長補佐に昇任され、北海道大学庶務部人事課課長補佐、庶務部庶務課課長補佐、医療技術短期大学部事務長、水産学部事務長、応用電気研究所事務長、理学部事務長を歴任し、平成6年4月工学部事務部長に昇任されて、同8年3月定年により退職されました。

この間、同氏は北海道大学及び旭川医科大学に42年の永きにわたり勤務され、特に昭和58年4月から退職までの13年の間、部局事務責任者である事務長または事務部長として卓越した行動力と実行力、そして広範な知識と経験をもって部下の指導と育成に努められるとともに、時の部局長を側面から支援しながら管理運営にあたられ、歴任した各部局の発展並びに整備充実に努められました。

特に工学部では、同氏の事務部長就任当時、丹保憲仁工学部長のもと、大学院重点化構想により、4専攻群11専攻41大講座2協力大講座4学科群12学科による大「工学研究科」への改組が進行中であり、同氏は情報エレクトロニクス系専攻群の大学院改革に着手されたほか、平成7年4月の改組に向け、概算要求、工学部改革推進委員会、設立準備委員会など多岐にわたる繁忙な業務にも関わらず、事務部の責任者として適切な指示・指導及び関係教官への事務面での適切な助言等により、新専攻群の組織及び新教育研究体制が整備され、今日の工学研究院・工学院・工学部の基礎となる組織改革に大いに寄与されました。

また、平成6年6月には、学内共同教育研究施設としてエネルギー先端工学研究センター、同年9月には量子界面エレクトロニクス研究センター、同7年3月には有害廃液処理施設として環境保全センターがそれぞれ工学部敷地に設立され、これらの施設整備に取り組みされました。

また、平成6年は工学部創立70周年の節目にあたり、部局内外の連絡調整、記念式典の開催準備及び挙行にも尽力されるなど、数多くの局面において、工学部の発展に多大な貢献をなされました。

以上のように同氏は、永年にわたって大学行政の進展に精励し、その功績は誠に顕著であります。

略 歴

生 年 月 日 昭和10年 9 月 4 日
昭和29年 4 月 北海道大学一般教養部臨時用人
昭和30年 1 月 北海道大学一般教養部
昭和32年 7 月 北海道大学一般教養部事務員
昭和34年 3 月 文部事務官
昭和40年 4 月 北海道大学教養部教務掛長
昭和45年 7 月 北海道大学法学部庶務掛長
昭和46年 5 月 北海道大学庶務部庶務課企画調査掛長
昭和48年 4 月 北海道大学庶務部入学主幹付入学試験掛長
昭和51年 4 月 北海道大学庶務部庶務課総務掛長
昭和54年 4 月 旭川医科大学総務部庶務課課長補佐
昭和55年10月 北海道大学庶務部人事課課長補佐
昭和56年10月 北海道大学庶務部庶務課課長補佐
昭和58年 4 月 北海道大学医療技術短期大学部事務長
昭和62年 4 月 北海道大学水産学部事務長
昭和63年 9 月 北海道大学応用電気研究所事務長
平成 2 年 4 月 北海道大学理学部事務長
平成 6 年 4 月 北海道大学工学部事務部長
平成 8 年 3 月 北海道大学定年退職

(工学院・工学研究院・工学部)

「フード&メディカルイノベーション（FMI）国際拠点」が稼働を開始

4月1日（水）、北キャンパスに「フード&メディカルイノベーション（FMI）国際拠点」がオープンしました。

FMI国際拠点は“ひとつ屋根の下”をコンセプトに、産学官地域と市民が多様な形で集い、札幌農学校時代から続いてきた「食」にまつわる研究、そ

して、医療分野の先進的な研究の融合を図るべく協働し、革新的な研究開発を展開することを目指しています。施設には、共同研究のための実験室や共通機器室、市民の皆様にもご利用いただける多目的ホール、オープンカフェ、ディスカッションプラザなどが設けら

れています。

本拠点から、「食」と「健康」をコンセプトとしたイノベーションを日本、及び世界へ発信していきたいと考えています。

（産学・地域協働推進機構）



フード&メディカルイノベーション国際拠点



エントランスホール吹抜け



多目的ホール



ディスカッションプラザ

第2回COI「食と健康の達人」ワークショップ in 岩見沢を開催

4月8日（水）に「第2回COI『食と健康の達人』ワークショップ in 岩見沢」を開催しました。

COI「食と健康の達人」拠点ではブレママから、子育て、高齢者の健康を守り、病後も美味しい食と楽しい運動で“笑顔のあふれる社会”の実現を目指しています。今回のワークショップでは、その中でも“ブレママから子育て”に焦点を当て、八森 淳先生（公益社団法人地域医療振興協会伊東市民

病院臨床研修センター長・医師）がファシリテーターとなり、岩見沢市で働いている保健師・管理栄養士の方々や企業からの参加者など50名以上が「女性・子供にとって住みやすい街とは？」というテーマで議論しました。住みやすさに必要な条件や、女性が働きにくいのはなぜか、など様々な観点で意見が出され、事柄に関わる人を全て書き出し、その関係性を明確に認識する関係者分析などの手法を交え、活

発な議論が行われました。普段はなかなか行わない「身近な事柄の掘り下げ」という新しい体験に、参加された方は多くの刺激を受けていました。

終わりに、本ワークショップ開催に当たり、ご配慮・ご協力いただきました皆様に改めてお礼申し上げます。

（産学・地域協働推進機構）



会場の様子



グループワークの様子



八森先生によるファシリテーション

平成27年度「全学教育科目に係るTA研修会」を開催

高等教育推進機構では、平成10年度から毎年全学教育を担当する新任TAを対象に、その心構えや役割の理解を深めることを目的として、高等教育研究部高等教育研究部門が中心となり研修会を開催しています。今年度は4月2日（木）に高等教育推進機構大講堂及び講義室等を会場として開催し、300名以上が参加しました。

午前の部は全学教育部長の 舩 和順

教授の挨拶に続いて、総合教育部長の鈴木久男教授による講演「北海道大学の全学教育について」、及び文学研究科の瀬名波栄潤教授による講演「TAのVisionとMission」等が行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。また、教員と大学院生をパネラーに招いたパネル討論「TAの業務と役割」では、積極的な意見交換が行われました。

午後の部はグループ学習として14の分科会に分かれて、「講義におけるTAの役割」及び「TAに期待される業務内容等」を中心に討論・発表等が行われ、参加者はTAの役割等についての理解を深めていました。

（高等教育推進機構）



総合教育部長の鈴木教授による講演



講演に聞き入る参加者

「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」及び「日本語研修コース」入学式を挙げる

本年4月入学の「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」及び「日本語研修コース」の入学式を、4月9日（木）午前9時30分より国際本部大講義室において行いました。

HUSTEPは、本学の国際交流協定校に在籍する留学生に対して原則として英語による授業を実施するプログラム、そして日本語研修コースは、大学院進学前の大使館推薦の国費留学生に対して開設されている6か月間の日本語予備教育を行う研修コースです。

今回入学したのはHUSTEPに13か国26名、日本語研修コースに9か国10名の、計21か国36名です。

式では、最初に来賓の方々や教員の紹介が行われ、その後、留学生一人ひとりの名前が読み上げられました。学生は、一人ひとり起立し、来賓の方々や教員、学生に向かって一礼しました。笑顔で挨拶する学生が多く、緊張の中にも、お互いに親しみを感じる機会になったようです。その後、寺尾宏明留学生センター長からの祝辞が続きました。

引き続き、午前10時45分より、学术交流会館にて外国人留学生のためのオリエンテーションを行いました。オリエンテーションの資料は、本学のロゴマークがついたリストバンド型のUSBメモリでデータ配付され、学生は嬉しそうにリストバンドを腕にはめていました。大学での事務手続き等の説明の他、札幌北警察署や札幌国際プラザに

よる交通安全や札幌での生活についての案内や在学生による大学生活に関する簡単な発表などがあり、学生たちは熱心に聞き入っていました。

（国際本部国際教務課）



寺尾センター長による祝辞



短期留学プログラム（HUSTEP）留学生



日本語研修コース留学生

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行

北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生に採用され4月に入学した留学生に対し、同特待プログラム留学生採用証書授与式を、4月24日（金）に国際本部大会議室で行いました。

授与式には、上田一郎国際本部長をはじめ関係者が出席し、上田国際本部長から留学生一人ひとりに採用証書が手渡されました。

この特待プログラムは、平成20年度から特待制度特待プログラム奨学金としてスタートしましたが、平成24年度から、検定料、入学料及び授業料を不徴収にする制度に改正されました。

国際的な貢献に寄与する人材を育成

することを目的として、学業成績が極めて優秀で、かつ、本学の教育研究に深い関心を持つ大学院の研究科及び学院の博士後期課程（医学研究科、歯学研究科、獣医学研究科及び生命科学学院臨床薬学専攻については博士課程）に入学する私費外国人留学生、または博士課程教育リーディングプログラムに選抜された修士課程、博士後期課程及び獣医学研究科の博士課程に入学する私費外国人留学生を対象としています。

現在は、今回の4月入学者の6名を含め、27名の特待プログラム留学生が在籍しています。

（国際本部国際教務課）



上田国際本部長から採用証書を授与



記念撮影

保健センターで「保健センター体験見学会～ハートフルキャンパス～」を開催

保健センターでは、4月1日（水）～3日（金）の3日間（各日午前10:00～11:30）、同センターにおいて「保健センター体験見学会～ハートフルキャンパス～」を開催しました。

キャンパスライフを送るうえで、健康な「こころ」と「からだ」は重要ですが、日常より皆様の健康を守り、キャンパスライフを応援している保健センターを知ってもらうことを目的に企画しました。来場者は3日間で90名であり、うち学部1年生が9割で、職員や保護者の方も来場されました。

来場者は「保健センターのマップをもって、各チェックポイントをまわり、

クイズに答えよう」というオリエンテーリング形式で、各部署の前に掲示されているポスターを閲覧してクイズに答えたり、各種の体験コーナーに参加するなどして、保健センターを見学しました。

体験コーナーは、フードモデルを使った栄養相談や、アルコールパッチテスト、臨床心理士によるリラクゼーションなどを用意し、事後のアンケートでは「楽しかった」「わかりやすかった」「これから役立つことを教えてもらうことができた」など、いずれもほぼ満足の回答をいただくことができました。「また参加したい」という

方が8割近くで、次回開催の際にはリピーターの方も含め、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

（保健センター）



栄養相談の様子



盛況なアルコールパッチテスト



リラクゼーションの様子



受付の様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

| | |
|----------------|------------------------------|
| 北大フロンティア基金情報 | 16,972件 3,003,351,060円 |
| 基金累計額（4月30日現在） | 教職員の寄附率 34.1%（1,338件/3,921人） |

4月のご寄附状況

法人等3社、個人142名の方々から4,257,600円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

eoT株式会社、日本精工株式会社、日本甜菜製糖株式会社

寄附者ご芳名（個人）

| | | | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 合川 正幸 | 浅野 賢二 | 東 剛己 | 伊藤 茂男 | 入澤 秀次 | 上田 諭 | 大申 松彦 | 小川 弘毅 |
| 奥谷 充章 | 小内 透 | 小原 大和 | 埴山 雅秀 | 加藤 園 | 金川 真行 | 河本 充司 | 斉藤 久 |
| 佐伯 康弘 | 桜井 謙介 | 佐々木りよ子 | 三升畑元基 | 清水 智之 | 須田 孝徳 | 瀬名波栄潤 | 土家 琢磨 |
| 寺澤 睦 | 豊田 威信 | 内藤 陽子 | 西村 崇雄 | 長谷川 晃 | 山内 隆嗣 | 吉泉 一也 | 吉田 広志 |
| 渡邊 淳 | | | | | | | |

銘板の掲示（20万円以上のご寄附） （個人）

佐々木りよ子、吉泉 一也

感謝状の贈呈

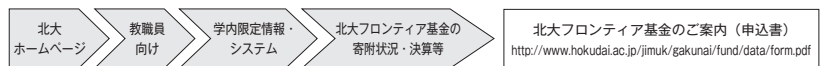


厚谷襄 様（平成27年5月14日）

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡しします。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部署事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

■ 部局ニュース

歯学研究科・歯学部が韓国 江陵原州大学校歯科大学と 部局間交流協定を締結

歯学研究科・歯学部では4月20日（月）に江陵原州大学校歯科大学との部局間交流協定を締結しました。歯学研究科・歯学部応接室で行われた調印式には、江陵原州大学校歯科大学からKo Seong-Hee 学部長、Cho Kyung-Mo 教授、Park Chan-Jin 教授の3名が、本研究科からは横山敦郎研究科長をはじめ10名が出席しました。また、来賓として本学ソウルオフィスの車 柱栄所長が出席しました。

江陵原州大学校歯科大学は韓国にある11歯科大学・歯学部の中で最も若い大学です。水産科学院・水産学部では

既に江陵原州大学校と部局間交流協定を締結しており、昨年10月に江陵原州大学校で開催された北海道大学交流デーへ歯学研究科・歯学部が参加したのが今回の交流協定の発端です。

歯学研究科・歯学部では部局間交流協定に留まることなく、大学間交流協定締結に向けて実績を積み上げていきたいと考えています。この交流協定締結に基づき、今後、両大学の学生交流が活発に行われることを期待しています。

（歯学研究科・歯学部）



調印前のKo学部長（左）と横山研究科長



調印後の記念撮影
（後列右から3番目がソウルオフィスの車所長）

水産科学院・水産科学研究院・水産学部が函館市から 産学官連携の建物を譲受

水産科学院・水産科学研究院・水産学部は、4月1日（水）に函館市から建物（函館市産学官交流プラザ）を譲り受けました。

函館市は、平成15年3月に策定した「函館国際水産・海洋都市構想」の産学官連携拠点施設として、平成18年4月に、函館キャンパス内のマリンサイエンス創成研究棟建設にあわせ、本学との合築で、当該研究棟内に「函館市

産学官交流プラザ」（372.17㎡）を設置しました。その後函館市は、平成26年6月に、函館市弁天町に「函館市国際水産・海洋総合研究センター」を建設、供用開始したことに伴い、産学官連携機能を同センターに移転したため、函館市産学官交流プラザは平成27年3月末で廃止されることになり、これまでの設置経緯や地域貢献への期待を込めて、当該施設が本学へ譲渡され

ることになったものです。

施設には、オープンスペース（約50名収容）、セミナールーム（定員16名）、ミーティングルーム（定員12名）等があり、これまでと同様に、講演会、セミナー、会議等で使用できる多目的スペースとして活用することとしています。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



オープンスペース



セミナールーム



ミーティングルーム

経済学部でメンタルヘルス講演会を開催

経済学部では、4月7日（火）に人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、メンタルヘルス講演会を開催しました。本講演会は、新入生オリエンテーションの一環として、経済学部1年生と総合入試から経済学部に進級した2年生を対象としたもので、

保健センター講師の齋藤暢一朗氏を講師に迎え、ストレスとその対処法等についての講演がありました。

当日は200名近い学生及び教職員が参加し、熱心に講演に聴き入っていました。また、参加者に対して講演終了後に実施したアンケートでは、特にス

トレス解消法として紹介された「先送り行動への対処法」について、「大変参考になった」「ぜひ実践したい」等の感想が多く寄せられました。

（経済学研究科・経済学部）



講演する齋藤講師



熱心に講演を聴く学生

薬学部で新入生歓迎会を開催

薬学部では、4月10日（金）、薬学部多目的講義室において、後期入試で薬学部へ入学した1年生24名及び薬学部へ移行してきた2年生83名の歓迎会を開催しました。

歓迎会には、薬学部・薬学研究院全体で約200名の参加があり、南 雅文薬学部長の挨拶の後、学年や研究室を越えて互いに交流を深め、ビンゴ大会など、盛会のうちに終了しました。

（薬学研究院・薬学部）



学生・教員との交流



学年を越えて交流



薬学部で平成27年度薬学実務実習開始セレモニーを挙げる

薬学部では、4月28日（火）、平成27年度薬学実務実習開始セレモニー「臨床現場へあがるための心得」を挙行しました。

この式は、薬学科5年次生が実務実習（病院実習・薬局実習）に臨むにあたって毎年実施しているもので、学生は、実習中のユニフォームとなる真新しい上下の白衣に身を包み、引き締まった面持ちで参加していました。

式には、南 雅文薬学部長、原島秀

吉教務委員会委員長、実務実習担当教員らが出席し、実務実習の趣旨や学生に期待すること、昨年度実施された実務実習を踏まえての注意点などとともに、激励の言葉が伝えられました。

受け入れ施設からは、北海道大学病院薬剤部の井関 健薬剤部長、株式会社インファーマシーズの新田玲子氏、株式会社ツルハの高野紀子氏、株式会社コムファの井野千枝子氏が出席し、臨床の現場・患者さんに直接接す

る場で実習に臨む際の心構えなどが伝えられ、学生たちが神妙に聞き入る様子が見られました。

また、南薬学部長から学生一人ひとりへ実習中着用するネームプレートが手渡され、病院、薬局合わせて5か月に及ぶ実習への壮行となりました。

（薬学研究院・薬学部）



激励の言葉をかける井関薬剤部長



ネームプレートを手渡す南薬学部長



真新しい白衣に身を包む学生たち

脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙げる



新しく加わった履修生と基幹教員

脳科学研究教育センターでは、4月3日（金）午後4時30分から、ファカルティハウス「エンレイソウ」第一会議室において、今年度入学した履修生の開講式を行いました。

吉岡充弘センター長（医学研究科教授）から、祝辞とともに発達脳科学専攻の特色ある教育体制や研究指導内容について説明があり、新入生は、パーソナル専攻の特徴を活かした大学院教育に、大きな期待を示していました。引き続き、田中真樹センター教務専門

委員会委員長（医学研究科教授）から、修了要件についての説明があり、「所属学院・研究科の課程のみを修了する大学院生に比べ、より多くの単位を修得する必要があり、さらには当センターの合宿研修や発表会等で研鑽を積むことになり大変ではあるが、ここで学んだことは必ず将来の自信につながるので頑張ってください」との激励がありました。また、出席した基幹教員から、祝辞とそれぞれの担当講義及び研究内容の紹介がありました。



新入生歓迎交流会の様子

開講式に引き続き、同会場にて新入生歓迎交流会が行われ、参加者は所属部局を超えて情報交換を楽しんでいました。

本専攻には、今年度8名の履修生（修士課程6名、博士課程2名）が加わり、全体では23名の履修生が在籍することになります。

（脳科学研究教育センター）

理学院等でリーディングプログラム・JACST合同シンポジウム「研究成果をなぜ発表しどのようにつたえるのか」を開催

4月28日(火)、物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム(ALP)*と科学技術広報研究会(JACST)の共同主催によるシンポジウムを学術交流会館大講堂で開催しました。シンポジウムには、学内外から140名余が参加し、STAP騒動を議論の端緒として、研究成果をどのように社会へ発信すべきか、研究者と広報が効果的に連帯するにはどうすべきか、研究成果を報道する際のジレンマなど、各界で活躍するジャーナリスト、広報担当者、研究者をゲストに迎え本音のトークが繰り広げられました。

山口佳三総長、JACST会長の岡田小枝子氏による主催者挨拶の後、コーディネーターである石森浩一郎理学研究院長がALPについて紹介しました。議論の枠組みは、新田孝彦理事・副学長が「なぜ科学者の倫理なのか～組織と研究者～」と題する基調講演で設定しました。

これを受け、大阪大学の中村征樹准教授が「研究成果の発表と研究倫理」について紹介しました。続いて論点提示に移り、STAP騒動が起きた独立行政法人理化学研究所発生・再生科学総合研究センター(当時)の広報担当であった南波直樹氏が問題発生当時の混乱状況、そこからの学びについて個人的な思いを披露しました。続いて、それを報道する側にいた毎日新聞STAP細胞論文問題担当デスクの永山悦子氏が、iPS細胞を報道した時の成功体験、iPS細胞に関する森口捏造事件で下した記事化しない判断等を例に、研究成果を報道する「喜び」「苦しみ」について報道現場の内情を説明しました。次に、科学技術コメンテーターとしてメディアでも活躍する近畿大学医学部講師の榎木英介氏が研究現場と社

会からの要求の間にあるギャップを実感したエピソードの数々を紹介し、さらに早稲田大学の岩崎秀雄教授から動画配信などによるピアレビューなしの研究成果発信や自宅をラボにするDIY-Bioなど、従来の科学研究のスタイルにとらわれない成果発表の可能性が提示されました。最後に、日本科学技術ジャーナリスト会議(JASTJ)の小出重幸会長をファシリテーターとして、論点提示の4名にJACST会長の岡田氏を加えた5人のパネリストによる討論が行われ、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会(JASC)の渡辺政隆会長代行、本学で科学技術コミュニケーション教育を推進する高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門(CoSTEP)協力教員の内村直之氏もコメンテーターとして参加しました。

本シンポジウムは、ALPとJACST

の主催に加えて、JASTJ、CoSTEP、JASCも共催となり、多様な団体の協力で問題を多面的に捉えることができました。懇親会ではシンポジウムにて話せなかったことを登壇者と参加者が直に議論する姿も見られ、科学技術の倫理の基礎から始まり、最先端の実務的事例、さらにその背後の課題まで、ALP所属の学生のみならず、教員も得るものが多い有意義なシンポジウムとなりました。

*物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム(ALP)

総合化学院総合化学専攻、生命科学院生命科学専攻、環境科学院環境物質科学専攻、理学院数学専攻、工学院量子理工学専攻に所属する大学院生を対象とする5年一貫の大学院教育プログラム。

(理学院・理学研究院・理学部)



報道現場の内情を説明する永山氏(毎日新聞社)



ファシリテーターを務める小出氏(日本科学技術ジャーナリスト会議 会長)



ジャーナリスト、広報担当者、研究者による総合討論の様子



主催・共催・協力組織のポスターをホワイトエに展示

■お知らせ

北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設

文部科学省共済組合北海道大学支部では福祉共同事業の一環として、毎年道内各地の宿泊所・保養所と利用契約し、宿泊費の一部負担を実施していますが、平成27年度においても次のとおり実施しています。

なお、予算の関係上、割当枚数に達した場合は、契約期間中でも利用券発行を停止しますので、ご了承願います。

1. 契約宿泊施設 宿泊施設一覧表のとおり
2. 契約期間 平成27年6月1日（月）～平成28年2月28日（日）（平成28年2月29日（月）は除く。）
3. 共済組合負担額 利用者1人1泊につき1,500円補助
4. 利用方法 利用券の発行を受ける場合には、利用券発行申請書を所属部局の担当係へ提出してください。
発行された利用券はチェックインの際に施設受付で提示し、利用券を使用して宿泊する旨を伝えてください。なお、インターネット予約等の際に、事前にクレジットカード等を利用して宿泊料を支払ってしまうと、利用券が使用できなくなりますのでご注意願います。
5. 利用資格者 組合員及びその被扶養者（小学生以上）とします。ただし、出張の際の利用はできませんので、ご注意願います。また、一度につき、3泊以上の利用はご遠慮願います。

平成27年度 宿泊施設一覧

| 施設名 | 所在地 | 電話 |
|--------------------|-----------------------------|--------------|
| KKRホテル札幌 | 〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目 | 011-231-6711 |
| 札幌ガーデンパレス | 〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目 | 011-261-5311 |
| ガトーキングダムサッポロ | 〒002-8043 札幌市北区東茨戸132 | 011-773-2211 |
| 定山溪ビューホテル | 〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東2丁目 | 011-598-3223 |
| 定山溪鶴雅リゾートスパ 森の詩 | 〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東3丁目192 | 011-598-2671 |
| KKRはこだて | 〒042-0932 函館市湯川町2丁目8-14 | 0138-57-8484 |
| 啄木亭 | 〒042-0932 函館市湯川町1丁目18-15 | 0138-59-5355 |
| 望楼NOGUCHI 函館 | 〒042-0932 函館市湯川町1丁目17-22 | 0138-59-3556 |
| グリーンピア大沼 | 〒049-2192 茅部郡森町赤井川229 | 01374-5-2277 |
| 八雲温泉 おほこ荘 | 〒049-3128 二世郡八雲町鉛川622 | 0137-63-3123 |
| 洞爺観光ホテル | 〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉33 | 0142-75-2111 |
| 洞爺サンパレス | 〒052-0107 有珠郡壮瞥町字洞爺湖温泉7-1 | 0142-75-1111 |
| 湖畔亭 | 〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉7-8 | 0142-75-2211 |
| 乃の風リゾート | 〒049-5721 虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉29-1 | 0142-75-2600 |
| 緑の風リゾートきたゆざわ（旧名水亭） | 〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町300-2 | 0142-68-8126 |
| 第二名水亭 | 〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町300-7 | 0142-68-6677 |
| ホロホロ山荘 | 〒052-0316 伊達市大滝区北湯沢温泉町34 | 0142-68-6677 |
| 登別グランドホテル | 〒059-0551 登別市登別温泉町154 | 0143-84-2425 |
| 御やど清水屋 | 〒059-0551 登別市登別温泉町173 | 0143-84-2145 |
| 石水亭 | 〒059-0551 登別市登別温泉町203-1 | 0143-84-2255 |
| 望楼NOGUCHI 登別 | 〒059-0511 登別市登別温泉町200-1 | 0143-84-3939 |
| ニセコグランドホテル | 〒048-1511 虻田郡ニセコ町字ニセコ412 | 0136-58-2121 |
| ルスツリゾートホテル | 〒048-1711 虻田郡留寿都村字泉川13 | 0136-46-3331 |
| かんぼの宿 小樽 | 〒047-0192 小樽市朝里川温泉2丁目670 | 0134-54-8511 |
| 休暇村 支笏湖 | 〒066-0281 千歳市支笏湖温泉 | 0123-25-2201 |
| しこつ湖鶴雅リゾートスパ 水の詩 | 〒066-0281 千歳市支笏湖温泉 | 0123-25-2211 |
| 星野リゾート・トマム | 〒079-2204 勇払郡占冠村字中トマム | 0167-58-1122 |
| サホロリゾートホテル | 〒081-0039 上川郡新得町狩勝高原 | 0156-64-7111 |
| 国民宿舎あしべつ | 〒075-0035 芦別市旭町油谷1 | 0124-23-1155 |

| 施設名 | 所在地 | 電話 |
|--------------------|-----------------------------------|--------------|
| 芦別温泉スターライトホテル | 〒075-0035 芦別市旭町油谷 1 | 0124-23-1155 |
| 大雪山白金観光ホテル | 〒071-0235 上川郡美瑛町白金温泉 | 0166-94-3111 |
| 層雲閣グランドホテル | 〒078-1792 上川郡上川町字層雲峡温泉 | 01658-5-3111 |
| 朝陽亭 | 〒078-1795 上川郡上川町字層雲峡温泉 | 01658-5-3241 |
| 朝陽リゾートホテル | 〒078-1701 上川郡上川町字層雲峡温泉 | 01658-5-3911 |
| ホテル日航ノースランド帯広 | 〒080-0012 帯広市西 2 条南13丁目 1 | 0155-24-1234 |
| ホリデーイン ホテル十勝川 | 〒080-0263 河東郡音更町十勝川温泉南16丁目 2 | 0155-46-2555 |
| ニュー阿寒ホテル | 〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉 2 丁目 8 - 8 | 0154-67-2121 |
| 鶴雅ウイングス・あかん遊久の里 鶴雅 | 〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉 4 丁目 6 - 10 | 0154-67-4000 |
| あかん鶴雅別荘 鄙の座 | 〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉 2 丁目 8 - 1 | 0154-67-5500 |
| 阿寒の森ホテル 花ゆう香 | 〒085-0467 釧路市阿寒町阿寒湖温泉 1 丁目 6 - 1 | 0154-67-2500 |
| KKRかわゆ | 〒088-3465 川上郡弟子屈町川湯温泉 1 - 2 - 15 | 015-483-2643 |
| 知床第一ホテル | 〒099-4351 斜里郡斜里町ウトロ香川306 | 0152-24-2334 |
| サロマ湖鶴雅リゾート | 〒093-0216 北見市常呂町栄浦306-1 | 0152-54-2000 |
| 旅館塩別つるつる温泉 | 〒091-0163 北見市留辺蘂町滝の湯201 | 0157-45-2225 |
| 北天の丘 あばしり湖鶴雅リゾート | 〒099-2421 網走市呼人159 | 0152-48-3211 |

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

■ 諸会議の開催状況

役員会 (平成27年 4月 9日)

- 議 案・ユニバーシティプロフェッサーの被称号付与者に対する支援措置について
 報告事項・総長補佐の任命について
- 平成26年度実施公共政策大学院認証評価結果について
 - 平成27年度学部入学者数について
 - 東日本大震災で被災した本学学部志願者への受験支援金の給付について
 - ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について

教育研究評議会 (平成27年 4月15日)

- 議 題・総長選考会議委員の選出について
 報告事項・総長補佐の任命について
- 平成26年度実施公共政策大学院認証評価結果について
 - 大学間交流協定の新規締結について
 - 共同プロジェクト拠点の認定について
 - ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与について
 - ユニバーシティプロフェッサーの称号付与について
 - 学生の懲戒について

役員会 (平成27年 4月24日)

- 議 案・医療法に基づく臨床研究中核病院への申請について
- 平成27年度中期目標達成強化経費第一次決定事業について
 - 平成28年度概算要求(特別経費)事前説明事業について
- 報告事項・平成27年度総長室事業推進経費について
- 平成26年度に譲渡した重要財産について
 - 自己収入の一層の拡大に向けた取組について

■ 研修

研修名：平成27年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

開催期間：平成27年4月14日～16日

開催場所：学術交流会館第一会議室

研修目的：北海道地区国立大学法人等の職員としての心構えを自覚させるとともに、初任職員として必要な基礎的知識を付与することを目的とする。



「開講式」挨拶（山口佳三総長）



受講風景



「特別講話」（村田直樹理事・事務局長）



演習・グループワーク（株式会社アムリプラザ）

（総務企画部人事課）

■表敬訪問

国内

| 年月日 | 来訪者 |
|---------|---------------------------|
| 27.5.11 | 日本航空株式会社 北海道地区支配人 中島 喜一 氏 |



日本航空株式会社 北海道地区支配人
中島 喜一 氏 (右から2人目)

(総務企画部広報課)

海外

| 年月日 | 来訪者 | 来訪目的 |
|---------|---|--------------|
| 27.4.7 | タマサート大学 (タイ) Naris Chaiyasoot 元学長, タマサート・リーダーシップ・プログラム 執行役会長 | 両大学の交流に関する懇談 |
| 27.4.21 | 江陵原州大学校歯科大学 (韓国) Seong-Hee Ko 歯学部長 | 部局間交流協定調印式参加 |
| 27.4.21 | 在札幌中国総領事館 藤 安軍 総領事 | 退任の挨拶 |



タマサート大学 (タイ)
Naris Chaiyasoot 元学長,
タマサート・リーダーシップ・プログラム
執行役会長 (右から3人目)



江陵原州大学校歯科大学 (韓国)
Seong-Hee Ko 歯学部長 (左から4人目)



在札幌中国総領事館
藤 安軍 総領事 (右から2人目)

(国際本部国際連携課)

人事

平成27年4月16日付発令

| 新 職 名 (発令事項) | 氏 名 | 旧 職 名 (現職名) |
|---------------|---------|----------------|
| 【技術職員等】 | | |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 青 山 桜 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 有 川 佳 奈 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 石 川 裕 佳 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 石 田 悠 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 石 橋 由 梨 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 岩 佐 華 那 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 上 野 雅悠子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 漆 山 夏 紀 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 大 西 舞 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 岡 あやめ | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 織 田 優 希 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 小 野 加 奈 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 角 田 夕 真 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 片 山 怜 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 鎌 田 優 奈 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 川 村 幾 美 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 菊 地 彩 花 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 木 下 由 梨 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 木 村 愛 莉 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 木 村 奈都未 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 木 村 遥 菜 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 木 村 優 駿 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 工 藤 智 穂 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 護摩堂 里 奈 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 古 満 まりの | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 今 菜 摘 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 齊 藤 香 梨 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 斎 藤 美 穂 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 櫻 庭 華 子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 佐々木 奈 美 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 佐々木 理 恵 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 佐 藤 可 菜 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 佐 藤 志 帆 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 佐 野 ちあき | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 佐 渡 沙緒里 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 志 賀 はるか | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 管 原 直 子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 高 橋 怜 愛 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 滝 井 彩 希 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 田 坂 理 美 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 田 邊 裕紀子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 塚 田 麻 希 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 坪 田 玲 奈 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 苔米地 美 裕 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 永 井 り ほ | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 中 田 彩 香 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 中 谷 真理子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 長 沼 希久代 | 北海道大学病院看護部看護助手 |

| 新 職 名 (発令事項) | 氏 名 | 旧 職 名 (現職名) |
|---------------|---------|----------------|
| 北海道大学病院看護部看護師 | 中 村 典 子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 中 谷 亮 太 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 中 山 瑛 里 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 夏 目 麻 由 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 西 村 春 菜 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 西 本 実咲希 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 野 村 百 加 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 藤 原 亜 樹 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 宮 谷 麻衣子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 茂 木 美 祐 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 八 木 亜李寿 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 柳 澤 友 香 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 柳 本 駿 介 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 山 崎 夕貴乃 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 山 田 怜 奈 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 山 梨 絢 子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 山 根 綾 華 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 横 濱 佑三子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 吉 田 あやめ | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 米 澤 裕 子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 若 松 紗 花 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 達 崎 しずか | 北海道大学病院看護部准看護師 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 天 満 亜希子 | 北海道大学病院看護部准看護師 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 豊 住 かおり | 北海道大学病院看護部准看護師 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 花 田 真理子 | 北海道大学病院看護部准看護師 |
| 北海道大学病院看護部助産師 | 工 藤 しずか | 北海道大学病院看護部看護師 |
| 北海道大学病院看護部助産師 | 我 妻 佳 奈 | 北海道大学病院看護部看護師 |

平成27年4月20日付発令

| 新 職 名 (発令事項) | 氏 名 | 旧 職 名 (現職名) |
|----------------|---------|----------------|
| 【技術職員等】 | | |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 阿 部 さお梨 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 姥 谷 実 佳 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 大 江 美 優 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 小笠原 穂の花 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 加 藤 愛 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 島 明日美 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 田 中 寛 幸 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 永 井 絢 子 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 成 田 淳 人 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 松 田 梨 花 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 山 根 綾 歌 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部看護師 | 萬 谷 友 理 | 北海道大学病院看護部看護助手 |
| 北海道大学病院看護部助産師 | 藤 田 麻 奈 | 北海道大学病院看護部看護師 |

平成27年4月30日付発令

| 新 職 名 (発令事項) | 氏 名 | 旧 職 名 (現職名) |
|----------------------|-------|-------------|
| 【准教授】 (辞職) | 井 上 猛 | 大学院医学研究科准教授 |

| 新 職 名 (発令事項) | 氏 名 | 旧 職 名 (現職名) |
|-----------------|--|---|
| 【助教】 (辞職) | 大 塚 沙 織 伊 藤 元 気 保 坂 昌 芳 山 本 貢 亀 井 敬 梶 田 美穂子 | 大学院獣医学研究科助教 大学院薬学研究院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 電子科学研究所助教 遺伝子病制御研究所助教 |
| 【技術職員等】 (辞職) | 杉 村 直 孝 堀 斐 菜 山 本 紘 恵 | 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 |

平成27年5月1日付発令

| 新 職 名 (発令事項) | 氏 名 | 旧 職 名 (現職名) |
|---|--|----------------------------------|
| 【准教授】 大学院工学研究院・国際連携研究教育局准教授 | 松 浦 妙 子 | 北海道大学病院・国際連携研究教育局助教 |
| 【講師】 北海道大学病院講師 | 賀 古 勇 輝 | 北海道大学病院助教 |
| 【助教】 大学院薬学研究院助教 大学院保健科学研究院助教 大学院保健科学研究院助教 北海道大学病院助教 | 人 羅 菜津子 大久保 寅 彦 益 田 紗季子 馬 場 基 | 採用 採用 採用 採用 |
| 【技術職員等】 北海道大学病院薬剤部薬剤師 北海道大学病院薬剤部薬剤師 | 松 浦 泰 寛 宮 前 祐 士 | 北海道大学病院薬剤部薬剤助手 北海道大学病院薬剤部薬剤助手 |

資料

役員員数

平成27年5月1日現在

| 部局等 | 職種 | 総長 | 理事 | 監事 | 小計 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 小計 | URA職 | 専門職 | 事務職員 | 技術職員 | 合計 |
|---------------------------------|-------|----|----|----|-----|-------|-----|-----|-----|----|-------|------|-----|------|------|-------|
| 役員 | | 1人 | 7人 | 2人 | 10人 | | | | | | | | | | | 10人 |
| 監査室 | | | | | | | | | | | | | | 7 | | 7 |
| 事務局 | 総務企画部 | | | | | | | | | | | | | 76 | | 76 |
| | 財務部 | | | | | | | | | | | | | 80 | | 80 |
| | 学務部 | | | | | | | | | | | | | 66 | | 66 |
| | 研究推進部 | | | | | | | | | | | | | 32 | 1 | 33 |
| | 施設部 | | | | | | | | | | | | | 9 | 25 | 34 |
| 附属図書館 | | | | | | | | | | | | | 90 | | 90 | |
| 文学研究科・文学部 | | | | | | 53 | 37 | | 9 | | 99 | 3 | | 16 | | 118 |
| 法学研究科・法学部 | | | | | | 33 | 15 | 2 | 12 | 3 | 65 | | 2 | 21 | | 88 |
| 経済学研究科・経済学部 | | | | | | 22 | 19 | | 7 | | 48 | | 2 | 7 | | 57 |
| 医学研究科・医学部 | | | | | | 41 | 28 | 19 | 62 | 3 | 153 | | | | 13 | 166 |
| 医学系事務局 | | | | | | | | | | | | | | 42 | 2 | 44 |
| 歯学研究科・歯学部 | | | | | | 19 | 15 | 4 | 49 | | 87 | | | 10 | 5 | 102 |
| 獣医学研究科・獣医学部 | | | | | | 17 | 15 | 4 | 14 | | 50 | | | 14 | 3 | 67 |
| 情報科学研究科 | | | | | | 38 | 36 | | 20 | | 94 | | | | | 94 |
| 水産科学院・水産科学研究所・水産学部 | | | | | | 29 | 37 | 1 | 11 | | 78 | | | | 40 | 118 |
| 函館キャンパス事務局 | | | | | | | | | | | | | | 23 | 4 | 27 |
| 環境科学院・地球環境科学研究所 | | | | | | 20 | 26 | | 7 | 1 | 54 | | | | | 54 |
| 環境科学事務局 | | | | | | | | | | | | | | 11 | | 11 |
| 理学院・理学研究所・理学部 | | | | | | 71 | 73 | 8 | 49 | 2 | 203 | | 2 | | 19 | 224 |
| 理学・生命科学事務局 | | | | | | | | | | | | | | 41 | 2 | 43 |
| 薬学研究所・薬学部 | | | | | | 16 | 8 | 4 | 25 | | 53 | | | | 3 | 56 |
| 薬学事務局 | | | | | | | | | | | | | | 11 | | 11 |
| 農学院・農学研究所・農学部 | | | | | | 46 | 40 | 24 | 12 | | 122 | | | | 11 | 133 |
| 農学事務局 | | | | | | | | | | | | | | 23 | 2 | 25 |
| 生命科学院・先端生命科学研究所 | | | | | | 11 | 6 | 2 | 10 | | 29 | | | | | 29 |
| 教育学院・教育学研究所・教育学部 | | | | | | 15 | 24 | | 1 | 1 | 41 | | | | | 41 |
| 教育学事務局 | | | | | | | | | | | | | | 7 | | 7 |
| 国際広報メディア・観光学院・メディア・コミュニケーション研究所 | | | | | | 25 | 23 | | 2 | | 50 | | | | | 50 |
| メディア・観光学事務局 | | | | | | | | | | | | | | 9 | | 9 |
| 保健科学院・保健科学研究所 | | | | | | 28 | 12 | 7 | 28 | | 75 | | | | | 75 |
| 工学院・工学研究所・工学部 | | | | | | 96 | 94 | 2 | 85 | 1 | 278 | | | | 51 | 329 |
| 工学系事務局 | | | | | | | | | | | | | | 67 | 3 | 70 |
| 総合化学院 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公共政策学教育部・公共政策学連携研究部 | | | | | | 10 | 9 | 2 | | | 21 | | | | | 21 |
| 北海道大学病院 | | | | | | 4 | 16 | 52 | 84 | | 156 | | | 115 | 661 | 932 |
| 低温科学研究所 | | | | | | 14 | 12 | 1 | 21 | | 48 | | | 9 | 9 | 66 |
| 電子科学研究所 | | | | | | 14 | 14 | | 17 | | 45 | | | | 10 | 55 |
| 遺伝子病制御研究所 | | | | | | 8 | 4 | 3 | 15 | | 30 | | | | 7 | 37 |
| 触媒化学研究センター | | | | | | 9 | 8 | | 5 | | 22 | | | | 6 | 28 |
| スラブ・ユーラシア研究センター | | | | | | 8 | 4 | | 2 | 1 | 15 | | | | | 15 |
| 情報基盤センター | | | | | | 6 | 5 | | 3 | | 14 | | | | | 14 |
| 人獣共通感染症リサーチセンター | | | | | | 6 | 5 | 2 | 3 | | 16 | | | | 2 | 18 |
| アイソトープ総合センター | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | 3 | | | | 2 | 5 |
| 量子集積エレクトロニクス研究センター | | | | | | 3 | 3 | | | | 6 | | | | | 6 |
| 北方生物圏フィールド科学センター | | | | | | 16 | 16 | | 11 | | 43 | | | 18 | 72 | 133 |
| 観光学高等研究センター | | | | | | 3 | 1 | | | | 4 | | | | | 4 |
| アイヌ・先住民研究センター | | | | | | 1 | 6 | | | | 7 | | | | | 7 |
| 社会科学実験研究センター | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | 1 |
| 環境健康科学研究教育センター | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | 1 |
| 北極域研究センター | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 脳科学研究教育センター | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 外国語教育センター | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サステイナビリティ学教育研究センター | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総合博物館 | | | | | | 2 | 3 | 2 | 1 | | 8 | | | | | 8 |
| 大学図書館 | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | 1 | 2 |
| 保健センター | | | | | | 1 | | 2 | | | 3 | | | | 9 | 12 |
| 埋蔵文化財調査センター | | | | | | | | | 2 | | 2 | | | | | 2 |
| 国際連携研究教育局 | | | | | | 4(12) | (8) | (2) | 1 | | 5 | | | | | 5 |
| 技術支援本部 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 情報環境推進本部 | | | | | | | | | | | | | 1 | 14 | 12 | 27 |
| アドミッションセンター | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人材育成本部 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 創成研究機構 | | | | | | | 1 | | 1 | | 2 | | 1 | | 8 | 11 |
| 国際本部 | | | | | | 5 | 11 | 3 | | | 19 | | 4 | 33 | | 56 |
| 高等教育推進機構 | | | | | | 3 | 7 | | | | 10 | | | | 4 | 14 |
| サステイナブルキャンパス推進本部 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安全衛生本部 | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 | | 1 | | | 3 |
| 大学力強化推進本部 | | | | | | | | | | | | 11 | | | | 11 |
| 産学・地域協働推進機構 | | | | | | | | | | | | | 7 | | | 7 |
| 北キャンパス合同事務局 | | | | | | | | | | | | | | 15 | | 15 |
| 合計 | | 1 | 7 | 2 | 10 | 700 | 636 | 145 | 571 | 12 | 2,064 | 14 | 20 | 866 | 987 | 3,961 |

※国際連携研究教育局の教職員数の（ ）内は、北海道大学ユニットの本務者数で内数。当該教職員は、原籍組織の教職員数に計上。
 (医学研究科・医学部：2名、獣医学研究科・獣医学部：3名、農学院・農学研究所・農学部：1名、保健科学院・保健科学研究所：1名、工学院・工学研究所・工学部：2名、
 北海道大学病院：2名、人獣共通感染症リサーチセンター：11名)

(総務企画部人事課)

HOKKAIDO UNIVERSITY
HOME COMING
DAY 2015
Be ambitious again!

北海道大学 ホームカミングデー 2015

主催 北海道大学
共催 北海道大学連合同窓会

Be ambitious again!

9/26 2015
SAT
北海道大学札幌キャンパス
公式HP: <http://www.hokudai.ac.jp/home2015/>

 北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学ホームカミングデーに関するお問い合わせ
北海道大学 総務企画部 広報課
お問い合わせ期間 9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)
TEL:011-706-2012 FAX:011-706-2092

編集メモ

- 若葉萌える季節となりました。キャンパスでは、ツツジが見頃を迎えています。
- 「ホームカミングデー2015」を9月26日（土）に開催します。ホームカミングデー特設サイトでは、

昨年度の動画や写真を掲載しています。情報は随時更新していきますので、ぜひご覧ください。本年も多彩な行事をご用意して、同窓生の皆様をお待ちしています。

◆ <http://www.hokudai.ac.jp/home2015/>



2014.5.10 江差線 湯ノ岱～宮越（上ノ国町）

北の鉄道風景 26 春紅葉

木々が色づくのは秋だけではない。長い冬が終わり、木々が芽吹き始める頃にも、一見秋かと見間違いう程に木々の葉が色づく。このような自然現象は春紅葉（はるもみじ）と呼ばれ、芽吹きの頃に、主にカエデ類で見られる。芽吹いた直後の葉は葉緑素を十分に持たず、緑色が薄いため、赤色や黄色など、木々の葉が本来持つ色素が見えてしまうことで春紅

葉になると言われている。写真は江差線の末端区間、廃止直前の様子である。ブナの新緑とカエデの春紅葉が真っ盛りの山間部を駆けるのは3両編成の普通列車、多くの人々が廃線を惜しみながら乗車しているのだろう。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑤ No.734 平成27年5月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html